

ひかりのこ

5月園便り

聖ミカエル幼稚園

2015年4月24日

月主題：おもしろい

入園式が終わり、その次の日から年少さんが28名、年長さんが3名、お母さんのもとを離れて、クラスのお友達と生活するようになりました。1日目の朝は、バスの中も、玄関も、保育室も「ウエーン、ウエーン」「おかあさんに会いたいよう」「おかあちゃん」と、涙、涙の大合唱でしたが、翌週の月曜日のお礼拝はみんな泣かずに、お祈りをしたり、お歌を歌ったり、聖書のお話を聞くことができました。

次の日の朝も泣く子はいますが、泣きながらも自分で靴を履き替え、お二階に上がろうとします。その姿がけなげで、小さいなりに自分で心に決めたことをやろうと頑張っているんだなあ、とジンときます。

年中さん、年長さんのお兄さん、お姉さんは本当に優しく、お手々をつないであげたり、隣に座ってあげたり、一生懸命お世話をしようとしています。時にはせっかく作った積み木を崩されて頭にきますが、それでもぐっと我慢して、優しく「ダメだよ。」と教えてあげています。午前で年少さんがお家に帰ると、年中長さんはほっとして、午後はゆったりお友達と遊んだり、自分の好きなことをして遊びます。

どの子も新しい環境や自分の立場に少し戸惑いながらも、少しずつ慣れていっているようです。お互いを認め合い、自分自身も輝いて、みんなで大きくなってほしいものです。

4月17日には父母の会総会に先立って、役員会が開かれました。昨年度の役員さんも集まってくださり、総勢20名程で引継ぎと新年度の役員会が開かれました。その役員会の雰囲気 genuinely 和やかで、新しい年少の役員のお母さんもほっとされたと思います。いろいろな役割も、みなさん快く引き受けてくださいました。

入園式での園長の話で、「この幼稚園の一番の自慢は『人』です。」とお話ししました。先生方も、教会の方々の協力も自慢できますし、なんと言っても、お父さん、お母さんの明るさと、優しさ、協力的な雰囲気が園長が一番の自慢です。この穏やかな雰囲気の中で、子ども達は安心して成長するのだと思います。

神様に見守られながら、子ども達も大人も新年度のスタートです。

園長 渡部良子

キリスト教保育

「忙しい時ほど ていねいに」

聖書によると、イエスという人は相当忙しく過ごしていたようです。行く先々で大勢の人が、病気や障がいを癒して欲しい、救って欲しいと集まってきます。そこで、弟子たちは群衆の交通整理をしたり、マネージャーのように次の予定を考えたりしていました。しかし、うまくいくとは限りません。なぜなら、イエスは偶然に出会った助けを求める人に対して惜しまず時間を割き、そのような人の全てを受け入れようとするからでした。弟子たちは忙しさのために相手との関係を失っていたのに対して、イエスは最後まで、しかも十字架の上に至ってもなお、周囲の人にていねいさを失うことはありませんでした。

先日、たまたま見ていたテレビ番組で、東京で人気の寿司屋の大将が後継ぎの息子に、「忙しい時ほどていねいに」仕事をしろと語っていました。いかにも、長い間職人として生きた人の言葉だと思いました。息子もこの言葉を大切にしているのを見て、私は小さな感動を覚え、イエス様のことを思い出しました。

職人技と呼ばれる人に共通するのは、本当は難しいことをしているのに、難しそうに見えない、ということがあるでしょう。私も職人という言葉にある種の憧れを感じていて、職人的な牧師というものがあるなら、そう言われてみたいとも思います。しかし、現実ほど遠いのが残念です。一方、子育てについては、私は職人技を多く感じるがあります。それはお母さんのことにも対する何気ない接し方であったり、幼稚園の先生たちの周到な準備の上にある保育の中にも見出されます。それがたとえ瞬間的なものであったとしても、私は素直に驚きを感じています。

「忙しい時ほど ていねいに」振る舞うのはそう簡単ではなく、それなりの訓練を要します。しかし、そんな職人技で接してもらえる子どもたちは、間違いなく幸せに違いありません。

チャブレン 司祭 下澤 昌